令和７年度

高 浜 町 教 育 委 員 会
自 己 点 検 評 価 報 告 書

高浜町教育委員会

――― 目　次 ―――

Ⅰ　はじめに　・・・・・ 1

Ⅱ　「点検・評価について（方法)」　・・・・・ 2

①対象期間

②点検・評価の構成

③点検・評価の方法

Ⅲ　自己点検・評価シート　・・・・・ 3

Ⅳ　自己点検・評価シートに対する外部の知見　・・・・・ 7

Ⅴ　全体総括　・・・・・ 9

Ⅰ　はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会の権限に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表しなければならないこととされています。

教育委員会が地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これに即した事業を実施し、その後自ら評価を行い、結果を公表することにより着実に計画の実行を図ることができます。

高浜町教育委員会では、令和７年度教育委員会の事務の管理及び執行状況について内容の評価・点検を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して報告書としてまとめました。

自己点検・評価を行うことで、今まで見えていなかった課題や不足していた部分が浮き彫りとなり、また教育行政に携わる一人ひとりが新たな視点を加えた中で事業に取り組むことにより、時代の変化に対応した教育行政の推進に資するものと考えております。

今回、自己点検・評価の取り組み内容を公表することで、教育行政のより一層の推進を図りたいと考えておりますので、住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

Ⅱ　点検・評価について（方法）

① 対象期間

令和７年度（令和７年４月～令和８年３月）

② 点検・評価の構成

評価項目について

令和７年度において実施した施策を、教育委員会の基本方針に基づき、

1. 社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
2. 人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育
3. 新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
4. 青少年の健全育成とスポーツの振興
5. 郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

以上の５区分に分類し、それぞれに定めた重点方策により点検・評価を行いました。

③ 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、Ⅲ 自己点検・評価シートにより事業実施状況を把握するとともに、課題や方向性について評価を行いました。

各事業に対する取り組み度･実現度の評価方法は、下記の４段階評価としました。

Ａ・・・十分な成果がみられる
Ｂ・・・おおむね成果がみられる
Ｃ・・・成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
Ｄ・・・成果がみられない

高浜町教育委員会の自己点検・評価シート　（令和７年度）

＝基本方針＝

〇社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育
〇人権意識を高め、明るいまちづくりに貢献する豊かなこころを育てる人権教育
〇新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進
〇青少年の健全育成とスポーツの振興
〇郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

Ａ＝十分な成果がみられる
Ｂ＝おおむね成果がみられる
Ｃ＝成果もみられるが、今後検討を要し、さらなる取り組みが必要である
Ｄ＝成果がみられない

１.社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	確かな学力の定着	Ｂ	実績	①小中学校に、町費単独採用講師を配置（６名）した。 ②小学校に、学習支援員を配置（７名）した。 ③タブレット端末や学習用アプリ等を活用した授業を実施した。
			成果	①②町費単独採用講師や学習支援員を配置することにより、きめ細かな指導を実施することができた。一方で、教員免許を有する町単講師については、恒常的に人材不足が続いている。 ③様々なICT機器を活用し、児童生徒が適切に学べる体制を整えることができているが、機器を活用した指導力の向上が課題である。
2	豊かな心の育成	Ｂ	実績	①小中学校に、教育相談員を配置（５名）した。 ②小中学校に、スクールカウンセラーを配置（5名）した。また、スクールソーシャルワーカーを配置した（１名） ③県と連携し、高浜中学校および高浜小学校に校内サポートルーム支援員を配置（各１名）した。 ④高浜公民館内（はまなす教室）に、教育相談員を配置（２名）した。 ⑤小中学校の図書館運営を支援する学校図書館支援員を配置（１名）した。 ⑥キャリア教育の一環として、金融教育を実施した。 ⑦要保護児童生徒の支援にあたり、児童相談所、こども未来課等とのネットワーク強化を図った。
			成果	①②③④各小中学校に教育相談員やスクールカウンセラー等を配置し、児童生徒や保護者からの教育相談体制を整備している。また、本年度よりスクールソーシャルワーカーを配置し、個別の家庭事情に踏み込んだ相談や支援についても実施できるようになった。【相談件数】延べ７，６０３件 ⑤学校図書館支援員が、学校図書館の環境整備、図書資料を活用した授業の補助、学校と町図書館間の相互貸出を行った。 【相互貸出冊数】延べ７３２冊 ⑥近隣の金融機関の方を外部講師として招聘（２名）し、お金と金融の働きについての学習を行った。 【高浜中学校】　７５名（３年） ⑦関係機関と連絡会議やケース会議などにより、要保護児童の早期発見やきめ細かな対応が可能となった。
3	健やかな身体の育成	Ｂ	実績	①地域スポーツ指導者（２６名）を配置した。 ②各学校が策定する「食育に関する指導計画」に基づき、栄養教諭や給食センター職員による栄養指導（３回）や食育授業（５０回）を実施した。 ③地場産食材を活用した給食や食育授業の実施のために、生産者と綿密に調整を図った。 ④安全で衛生的な給食を安定的に継続提供するため、専門的な知識や技術のノウハウを持つ民間事業者への委託を実施した。
			成果	①地域スポーツ指導者を中学校に配置することにより専門的な技術指導ができているが、人員が不足しており教員の負担軽減までには至っていない。 【出務日数】地域スポーツ指導者　延べ３７０日 ②栄養指導や食育授業により、児童生徒の「食」に対する理解を深める機会を提供することができた。 ③生産者との連携によって、地域産の食材の安定供給に寄与した。 ④民間事業者と連携し、児童生徒の健やかな成長のため、欠食することなく安全で安心した給食を提供することができた。
4	教員の資質能力の向上	Ａ	実績	①教員（１名）を、福井大学の教職大学院（学校改革マネジメントコース）へ派遣した。 ②小中学校に、情報教育サポーターを派遣した。
			成果	①教職大学院への教員派遣で得たスキルを、他の教職員に伝達する取り組みを行った。　　【派遣日数】延べ　３５日（２年合計４５単位取得） ②情報教育サポーターを派遣し、機器やソフトのトラブルの対応や教職員への操作方法の説明を行い、ICT機器を活用した授業の推進に大きく寄与した。 【派遣日数】延べ約１２０日

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
5	幼児教育の充実	B	実績	①保幼小連携研修会を開催（２回）した。 ②各保育所へ外国語指導助手を派遣した。
			成果	①保育所現場と学校現場の情報交換により共通理解を図ったが、さらに深化させる必要がある。 ②幼児期からネイティブな英語に触れる機会を提供できた。
6	外国語活動の充実と国際理解教育	A	実績	①小中学校へ外国語指導助手（３名）を配置した。 ②生徒の保護者に代わって、英語検定料を負担した。
			成果	①外国語指導助手の指導により、児童生徒がネイティブな英語に触れることができた。 ②英語検定料の町費負担により、全ての生徒が受験できる環境を整えることができた。
7	特別支援教育の充実	A	実績	①特別支援学級に在籍する児童生徒（１０名）の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を給付した。（５９，４１８円） ②小学校の特別支援学級に在籍する児童が中学校へ進学する際の移行支援会議を開催（１回）した。 ③学校調査員および管理職を対象に校内支援委員会に関する研修会（各１回）を開催した。
			成果	①奨励費を給付することにより、特別支援教育に要する経費の保護者の負担軽減に繋がった。 ②児童生徒の個々に応じた支援方法について、保護者や関係者との合意形成を図った。 ③校内支援委員会の運用についての理解を深めることにより、校内サポート体制の充実を図った。
8	教育環境の改善	B	実績	①和田小学校長寿命化改修工事を実施した。（令和７年度～８年度継続事業） ②各小中学校へ防犯カメラを設置した。 ③小学校、中学校、高校への入学時の支度金に対する保護者支援のため、入学・新生活スタート応援給付金を支給した。 【給付件数】２３３件　【給付金額】７，９５０，０００円 ④中学校や高校への通学費に対する補助を実施し支給した。１５，３９１，０８３円 【補助率】中学生通学定期代　１０割（路線バスを含む）　高校生通学定期代　８割（スクールバスを含む）　ひとり親定期代　１０割 ⑤児童生徒の教材費無償化補助金を実施した。（６校＋区域外就学児童生徒）１３，４１８，０００円 ⑥給食費の無償化を実施した。４４，５３７，４６９円（賄材料費） ⑦町内から遠方の高校への通学のために入寮、下宿している生徒の入寮費に対する保護者支援のため、入寮費助成補助金を支給した。 【補助率】入寮費上限の８割（上限：５，０００円）　【補助件数】１０件　【補助金額】４６８，０００円
			成果	①和田小学校長寿命化改修工事を実施することができた。 ②町内全ての小中学校へ防犯カメラを設置し、児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整えることができた。 ③④⑤⑥⑦教育に係る保護者の経済的負担軽減に伴う家庭環境の安定化が、児童生徒の精神的な安定に繋がった。

２.人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	人権教育の推進	B	実績	①児童生徒が人権について学ぶ地区学習会（ヒューマンサークル・ヒューマンサークルジュニア）を開催した（２６回） ②高浜町人権教育研究会の研究活動に対し、補助金を交付した。 ③小・中学校学習会合同で神戸市の「人と防災未来センター」を訪問し、館内の見学と「震災の語り部」から聞き取り活動を行い、大きな災害が発生した場合の様々な立場の人の人権（高齢者、障がい者、子どもなど）や生命尊重に関する見識を深めた。
			成果	①学習や研究活動を通じて、人権への理解を深める機会を提供できた。 ②継続的な研修の実施により、教職員の人権意識の高揚をさらに高める必要がある。 ③震災時の話を語り部の方から直接聞くことにより、震災という非日常的な場面でのそれぞれの立場の方の人権について学び、理解を深める機会を提供できた。

３.新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	公民館事業の推進	A	実績	①４公民館において、一般教養、高齢者健康促進、子ども(親子)体験活動などの公民館講座（３７７講座）を実施した。 ②包括連携協力に関する協定を締結している舞鶴高専と共催で、高専の学生等による小学生対象の出前講座（４講座）を実施した。 ③郷土資料館と共催で、砕導山城跡と二子山古墳の現地見学会（２講座）と逸見昌経と七年祭に関わる講演会（１講座）を実施した。
			成果	①公民館講座に延べ４，０８８名の参加があったが、近年、同様のイベントや学校行事などと重なり、参加者の確保が困難になってきたため、参加者のニーズを踏まえながら、定期講座以外の事業については内容を精査し実施した。 ②公民館出前講座に延べ５６名の参加があった。小学生と年齢の近い高専の学生が講師となることで、モノづくり講座やプログラミング教室についてより興味を持って探求学習の促進につなげることができた。 ③郷土資料館との共催講座に延べ４９名の参加があった。地元の偉大な歴史人物や古墳時代の歴史など、住民が共通の郷土史を学ぶことで、世代を超えた交流や地域への愛着が更に深まった。山城や古墳の現地見学会に関しては、多くの歴史好きが集まった。
2	図書館図書の充実と施設の利便性向上	A	実績	①令和７年度に新たに２，９８９冊購入した。【一般書１，６６２冊・児童書１，３２７冊】 ②利用者の利便向上のため、これまで周知が図られてなかったインターネット端末(ＰＣ・スマホ等)の図書予約を、来館者に告知・案内した。 ③定期検診の際に、新生児に絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を実施した。 ④老朽など廃棄対象となった蔵書等を町民に譲渡する「古本市」を開催した。 ⑤居心地の良い空間づくりのため、図書館中庭をオープンテラスとして利用できるよう整備した。（期間：４月～１１月上旬） ⑥夏季休暇や年末年始に合わせ貸出アップ等の図書館企画（５企画）を実施した。
			成果	①話題の新刊をはじめ、ジャンルやテーマを問わず幅広い図書を積極的に購入したことで、利用者一人ひとりの多様な興味や目的に応えることができた。 【貸出冊数】６１，６６８冊 ②来館以外にインターネット端末でも図書の予約が可能で、図書館利用者の幅が広がり、図書に触れ易い環境が構築できた。 ③ブックスタート事業により、幼少期から本に親しみ、心を育てる情操教育に寄与する取り組みができた。 【配布実績】１１８冊（新生児１人当たり２冊及び布製特製バッグ１個） ④古本を希望者に譲渡することで、収蔵庫の適正管理を図ることができた。 【譲渡実績】１，２４４冊 ⑤オープンテラスで読書や食事・休憩等に利用していただき、幅広いニーズに貢献することができた。【利用者数：１５８名】 ⑥図書館企画を開催したことにより、より多くの方に図書館へ来館するきっかけ作り等を提供することができた。【年間来館者数３１，０５６名】
3	国際社会に対応するまちづくりの推進	B	実績	①国際交流に対して意識の高い地域団体が実施する外国語講座や日本語教室の主催に対し、補助金の交付や運営支援を行った。 ②町内在住・町内出身の高校生及び18歳までを対象とし募集を行い、選考会を経て14名の留学生を決定し海外留学事業(フィリピン共和国セブ島)を実施した。【留学生１４名】
			成果	①国際交流活動を支援することで、町民の国際理解や在住外国人の生活支援に寄与することができた。 ②海外留学を通じて語学力を向上させるとともに、様々な人々との交流により、コミュニケーション能力や主体的に行動する力の強化に繋がった。
4	放課後児童クラブの充実	B	実績	①町内全学校区内４か所（高浜小・和田小及び和田公民館・青郷公民館・内浦公民館）で放課後児童クラブを開設し、延べ10,013名の利用実績があった。 ②支援員を対象に、研修会（3回・放課後子どもクラブ資質向上研修会・セルフケア研修、避難時の対策研修）を実施した。 ③町内全４か所（高浜・和田・青郷・内浦）の放課後児童クラブにおいて業務支援ICT（iPadを使用した児童の入退所管理、保護者からの利用申請受付、職員の出務管理等）を活用した。
			成果	①保護者の就労環境を保障する機能として、定着を図ることができた。 ②支援員の研修機会を確保することにより、保育の質の向上と事故の未然防止が図ることができた。 ③業務支援ICTを活用し支援員の負担軽減と児童の安全管理を図ることができた。

４.青少年の健全育成とスポーツの振興

NO	重点方策	評価	区分	説明
1	青少年の心身の健全育成	A	実績	①スポーツ少年団（団体数　軟式野球２／和田１・青郷１、ラグビー１、サッカー１、ミニバスケットボール男子１、同女子１、柔道１、バドミントン１、剣道１、バレーボール１　計１０団体、団員数　小学生１５０／男子１０６・女子４４、中学生１７、高校生以上４　団員計１７１名）の単位団へ補助金交付による活動支援を行った。 ②青少年愛護センター補導員等による見廻り、見守り活動（延べ３５日）を実施した。また、補助金による団体への活動支援を継続して行った。
			成果	①スポーツ少年団活動を継続できたことで、子どもたちの意欲的な活動を支援することができた。 ②定期的な巡回活動により、青少年の夜間徘徊や不良行為につながる行動を未然に防ぐことができた。また、青少年育成高浜町民会議主催の「ふれあい広場」を開催し、地域交流の場を提供することができた。

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
2	競技スポーツ、生涯スポーツの普及	A	実績	①スポーツ協会委託事業として、６種目（軟式野球、壮年ソフトボール、ゴルフ、グラウンドゴルフ、ゲートボール、女子バレーボール）の大会を開催した。 ②幅広い層が参加しやすいニュースポーツ教室（ふらばーるバレー、ボッチャ、モルック）を５回開催した。また、モルック交流大会を開催した。 ③ビーチスポーツ教室（シーカヤック、ＳＵＰ、海釣り、水難救護体験）や水辺の安全教室を開催し、海を活用した生涯スポーツの普及活動を行った。 ④若狭高浜はまなすマラソン、青葉山トレイルマラソン、ビーチラグビー、ジュニアトライアスロン等の各種大会に対し補助事業を実施した。 ⑤ＳＮＳを活用したスポーツ情報の発信を行った。
			成果	①スポーツ協会と連携しながら６種目を開催し、町民の健康増進と地域の交流づくりに寄与することができた。 【スポーツ大会参加者数】延べ３７３名 ②運動習慣の定着や健康増進意識の向上につなげることができた。 【ニュースポーツ教室参加者数】延べ１６２名　【モルック交流大会】１１チーム ③町内団体との協働によりビーチスポーツ教室を２回、水辺の安全教室を全小学校で開催し、高浜の自然環境を活かした生涯スポーツを推進することができた。 【ビーチスポーツ教室参加者数】延べ８０名　【水辺の安全教室参加者数】延べ８９名 ④町内外から多くの参加があり、競技スポーツの推進と高浜町の魅力発信を行うことができた。 【若狭高浜はまなすマラソン参加者数】６２６名　【青葉山トレイルマラソン参加者数】９１名　【ビーチラグビー中部大会参加者数】７０チーム他 ⑤ＳＮＳを活用し、特に若い世代や町外者にタイムリーなスポーツ情報を届けることができた。
3	体育施設の整備	B	実績	①中央球場トイレ・観客席改修工事を実施した。 ②社会教育施設、体育施設の各種点検および必要な修繕を実施した。
			成果	①中央球場使用時の安全性と利便性を向上することができた。 ②各施設の点検結果に基づき環境整備や修繕工事等を行った。

５.郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

NO	重点方策	自己評価	区分	説明
1	郷土愛を育む教育	A	実績	①小中学校で特色ある学校づくり活動（ふるさと学習）を行った。 ・「地域の教育資源を活用したふるさと教育事業（高浜小学校）」（地域団体と連携したＳＤＧｓをテーマにした学習、「昔遊び」を通じての地域住民との交流など） ・「特色ある学校づくり（和田小学校）」（農業体験、命の学習、地域の魅力発見活動など） ・「青の郷　ふるさと学習（青郷小学校）」（青郷地域の自然・歴史・産業学習、地域の方々との交流活動など） ・「ふるさと大好き　未来を拓くいきいき内浦っ子（内浦小中学校）」（地域の方との交流を通じた学習、地域課題解決活動など） ・「未来に希望を持ち、人間性豊かな生徒の育成（高浜中学校）」（地域人材と連携した探求学習（高浜未来創造プラン）、ボランティア活動、キャリア教育など） ②企画展（テーマ「高浜七年祭写真展」「高浜町史刊行記念展」）を開催（２回）、ミニ企画展（テーマ「高浜七年祭回顧展」「国登録有形文化財 湯淺家住宅パネル展」「語り継ぐ高浜の記憶」「高浜中学校職場体験特別展示 廣野美一作品集」「高浜七年祭写真展in内浦公民館」「釈宗演と若狭の禅僧たち」「日枝神社秋季大祭写真展」を開催（７回）した。 ③わかさ高浜古文書会を開催（８回）した。 ④展示関連行事 「湯淺家住宅現地見学会＆講座」「釈宗演の語り」「釈宗演とふるさと高浜」「夏季企画展講演会」「秋季企画展記念講演会」（５回）」
			成果	①児童生徒それぞれが住む地域の魅力を再認識する機会を提供することができた。 ②文化財の常設展示や企画展を開催することで、町民が貴重な文化財に直接触れる機会を提供することができた。 【企画展入館者数】５１１名　【ミニ企画展入館者数】１５５３名 ③古文書解読を通じて高浜の歴史、歴史学の手法に関する知見を提供することができた。【参加者数】１９名 ④様々な分野の講師を招き、高浜の歴史を知っていただく機会とすることができた。【参加者数】１６９名
2	町民の文化意識の高揚	B	実績	①文化会館施設の利用件数・利用者数は、７２７件、２４，３４５人であった。 ②文化会館事業として、文化芸術や文化施設等に興味・関心を持っていただけるよう、４件の町独自事業を実施した。 ③その他、町民の文化芸能意識を高め、情操を深めることを目的とした文芸協会への委託事業（音楽鑑賞事業２回、芸術鑑賞事業１回、展示事業１回）と、文化協会等への補助事業（高浜町文化祭１回と和田・青郷地区文化祭各１回）を実施した。
			成果	①町民の文化意識、情操を深める一助とすることができた。 ②地域の総合型スポーツクラブと連携し、事業（eスポーツフェス）を開催することで、より多方向から文化の浸透を図ることができ、多くの方々に参加して頂いたが、その一方で人口減少も進み、施設の老朽化等も進行する中で、今後の施設のあり方等を含め、検討していく必要がある。 ③テレビ等で活躍する著名なゲストを招いた催しなどを開催し、大いに町民の文化意識の高揚を図ることが出来た。
3	文化財の保存・継承・活用	A	実績	①文化財管理者へ補助金（中山寺本堂防災設備保守点検業務補助金ほか４件）を交付した。 ②「高浜町史資料編 埋蔵文化財」及び「高浜町史別編 年表・索引」を刊行した。
			成果	①文化財の保護継承活動を支援することができた。 【補助金交付件数・金額】５件 ４８２，０００円 ②高浜町史５巻全てを刊行することができ、より一層高浜町の歴史文化に触れていただける機会を提供できた。

Ⅳ　自己点検・評価シートに対する外部の知見（要約）

1．社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

ア．自己点検評価が適当と思われるかどうか？　（ 適３名 、 否０名 ）

イ．自由コメント

・学習支援員や教育相談員などを配置され、学力のみならず、心のケアまでよく行き届いている。

・本年度から実施された SSW の配置にも期待したい。

・学校でタブレット端末を活用するようになり数年が経ち、児童生徒も当たり前のように使うようになってきたと思う。ただ、何もかもデジタルに頼るのではなく、アナログでの学習の大切さもはっきりしてきたのではないか。デジタルとアナログのメリハリのある活用を期待したい。

・教育相談員・SC・SSW など支援体制が充実してきたことは評価できる。相談件数も多いように感じるが、相談が必要な方々にとって本当に相談しやすい運用方法になっているか検証をお願いしたい。

・各小中学校に配置されている外国語指導助手の成果として、「ネイティブな英語に触れることができた」となっているが、「触れること」が配置のねらい（目標）なのか。配置されるようになってかなりの年数が経っているように思うので、そろそろ次の段階に進んでもいいのではないか。また、学年によりねらい（目標）も違ってくるのではないか。

2．人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

ア．自己点検評価が適当と思われるかどうか？　（ 適３名 、 否０名 ）

イ．自由コメント

・神戸市の「人と防災未来センター」訪問は良かった。語り部の方から生の声を

聞けたことは大変貴重な体験と思う。

３．新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

ア．自己点検評価が適当と思われるかどうか？　（ 適３名 、 否０名 ）

イ．自由コメント

・図書館中庭のオープンテラスや古本市は良いと思う。久しぶりに行ってみたくなった。

・図書館の予約システムの活用率が数値で記述されているとわかりやすのでは。

・図書館来館者数について、当初目標と比べてどうなのか、また前年度と比べて増えたのかなど、成果としてどう評価しているかわかると良い。

４．青少年の健全育成とスポーツの振興

ア．自己点検評価が適当と思われるかどうか？　（ 適３名 、 否０名 ）

イ．自由コメント

・スポーツ少年団の活動が活発に思える。中学校の部活動がどうなっているのかも気になるところである。

５．郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

ア．自己点検評価が適当と思われるかどうか？　（ 適３名 、 否０名 ）

イ．自由コメント

・中学校の探求学習発表会等に行かせていただいて、子供たちの郷土愛を感じることができうれしく思った。

・各評価項目に、なぜ、その評価となったのかわかるような記述があるとよい。

Ⅴ　全体総括

高浜町教育委員会で実施する事業を、高浜町教育方針に基づき５つの項目に分類し、自己点検・評価を行い、その評価について外部の知見者の方に意見を伺いましたところ、どの項目に対しても概ね適当とのご意見を賜りました。今回の評価で得られた外部の知見と共に、この点検・評価結果を活かし、教育の諸課題解決に向け、常に問題意識を持ちながら新規事業・継続事業とも、その内容の強化と充実に努めていきます。

１.社会の中で信頼と尊敬を得る人間性を育てる学校教育

町独自での支援人材（町単講師・支援員・相談員・SSW など）を配置し、児童生徒の学力向上や心のケアなどの対応ができていることについて評価する意見がありました。また、対象者が相談しやすい運用方法になっているか検証を求める意見も頂きました。

児童生徒の学習面で、デジタルだけでなく、アナログも交えたメリハリのある学習を望む意見がありました。また、ＡＬＴの配置について、英語に触れるだけではなく、もう一歩進んだ目標やねらいを考えていくことが必要という意見も頂きました。

今後も学力の向上や学習環境の整備、頂いたご意見をはじめとする各種の課題について、学校と連携し改善に努めていきます。

２.人権意識を高め、明るい町づくりに貢献する豊かな心を育てる人権教育

児童生徒が、神戸市の「人と防災未来センター」を訪問し、阪神大震災を経験した方から直接お話を伺ったことについて、評価する意見がありました。

今後も引き続き、児童生徒だけでなく、教職員への人権・同和教育、研修の推進も含め、様々な分野での人権教育を推進していきます。

３.新しい時代を生きぬき、創造する知性と教養を育てる生涯学習の推進

図書館のオープンテラス設置や古本市について、評価する意見がありました。

一方で、数値目標や成果の評価が見えにくいというご意見も頂きました。

その他、公民館を含めた生涯学習活動全般についても、各地域のニーズを踏まえた活動を継続していきます。

４.青少年の健全育成とスポーツの振興

スポーツ少年団の活動について評価する意見がありました。また、それに伴い、中学校の部活動の地域展開の今後を気に掛ける意見がありました。

今後も社会全体で人口減少が進む中、引き続き各団体との連携に努め、町民のスポーツ活動の推進を図れるよう取り組んでいきます。

５.郷土愛に満ちた文化創造の心を育てる文化振興

探究学習や特色ある学習について、子どもたちの郷土愛を感じられる発表や活動を高く評価する意見がありました。今後も継続してふるさと学習を推進していきます。

高浜町教育委員会
〒９１９－２２９２
福井県大飯郡高浜町宮崎第８６号２３番地２
TEL　０７７０-７２-７７２４
FAX　０７７０-７２-２８８９
e-mail　gakkou-edu@town.takahama.lg.jp